

日本学術会議 総合工学委員会原子力安全に関する分科会
原発事故による環境汚染調査に関する検討小委員会（第24期・第1回）
議事録

1. 日 時 平成30年5月7日（月）13:00～15:00

2. 会 場 日本学術会議6階6-A（2）会議室

3. 議 題

- 1) 小委員会の設置趣旨
- 2) 役員の選出について
- 3) 23期までの活動
- 4) 24期の活動計画およびワーキンググループの設置
- 5) その他

4. 配付資料

資料1-1 小委員会の設置提案書

資料1-2 小委員会小委員会委員名簿

資料2-1 小委員会第23期第1回議事録

資料2-2 総合工学委員会原子力事故対応分科会第23期第7回・三小委員会合同会
議議事録

資料3-1 データアーカイブズワーキンググループ第23期活動報告

資料3-2 データアーカイブズワーキンググループ構成員名簿

資料3-3 事故と環境情報の交流ワーキンググループ準備会報告

5. 出席者（委員名簿順、敬称略）

植松光夫、柴田徳思、関村直人、中島映至、森口祐一、伊藤好孝、内田滋夫、内田俊
介、海老原充、恩田裕一、篠原厚、高橋知之、鶴田治雄、難波謙二、星正治、梶本和
義

6. 議事概要

1) 小委員会の設置趣旨

- ・資料1-1に基づき、森口委員より、本委員会の設置趣旨の説明があった。
- ・資料1-2に基づき、各委員より自己紹介があった。

2) 役員の選出について

- ・委員の互選により、森口委員が委員長に選出された。
- ・森口委員長の指名により、恩田委員が副委員長に選任された。また内田（俊）委員および高橋委員が幹事に選任された。

3) 23 期までの活動

- ・資料 2-1 に基づき、森口委員より、第 23 期第 1 回委員会の説明及び前期の活動の紹介があった。
- ・資料 2-2 に基づき、森口委員より、平成 29 年 6 月 8 日に開催された合同会議の説明があった。
- ・資料 3-1 に基づき、伊藤委員より、東京電力福島第一原子力発電所事故に関連する放射線・放射能測定データアーカイブズワーキンググループの活動報告があり、以下の議論があった。
 - ・個人情報にあたる情報の主なものはデータ保持者に関する情報である。よって、メタデータベースではコンタクトアドレスを表示して、連絡を仲介することとなる。
 - ・データの質の吟味は行わざるを得ないと考えている。メタデータベースに「信頼度」の項目をいれており、判断した結果を記入することとなる。
 - ・元データのリンク切れについては、国立国会図書館のウェブサイト・アーカイブ（WARP）と関連しての対応を考えている。メタデータベース公開後は、データの所有権の移管や公開許可についても検討する必要がある。
 - ・データベースそのものは日本語のみであっても、メタデータベースは日英両方とする。
- ・資料 3-3 に基づき、内田（俊）委員より、事故と環境情報の交流ワーキンググループの活動報告があり、以下の議論があった。
 - ・ワーキンググループ活動の成果の公開については、日本原子力学会の FP 挙動連絡会の活動とリンクする形で考えたい。また、その際は環境分野とのリンクも重要であると考えている。
 - ・環境挙動について、大気放出を中心に検討している。海洋放出については具体的なプラントにおける挙動との関連性を抑えることが難しい。環境側の情報からのアプローチとあわせて進めることが必要である。
 - ・初期の海水に関するデータや試料も存在する。
 - ・試料の散逸防止も重要な課題である。また、発電所サイト内の試料の保全も重要である。

4) 24 期の活動計画およびワーキンググループの設置

- ・資料 3-2 に基づき、伊藤委員より、東京電力福島第一原子力発電所事故に関連する放射線・放射能測定データアーカイブズワーキンググループの活動報告があり、以下の議論があった。
 - ・理研の本林透氏から WG に参加するのご連絡があったため構成員に追加する。
- ・資料 3-3 に基づき、内田（俊）委員より、事故と環境情報の交流ワーキンググループの準備会について報告があった。

5) その他

- ・日本学術会議の議事録に関するルール変更（会議後 8 週間以内に確定）への対応のため、幹事が作成した議事録案を回覧して必要に応じて修正した後、確定は小委員長に一任することが承認された。
- ・森口委員長より、茨城大学の五十嵐康人氏を小委員会委員に追加する旨報告があった。
- ・WG の構成員は必要に応じて追加可能とする。構成員は WG で決定し、委員長に報告する。委員会に対しては原則として報告とするが、委員長が必要と認める場合は委員会で審議する。
- ・両ワーキンググループに、海洋に関するメンバーがいなかったため、植松委員にご推薦を頂く。
- ・試料アーカイブも重要な課題である。試料アーカイブについてはその専門の方に来て頂いて議論をする必要がある。まずはデータアーカイブズワーキンググループにおいて議論を行い、データアーカイブズワーキンググループの所掌とするか、あるいは新たなワーキンググループを立ち上げることとする。
- ・福島大学環境放射能研究所では、文部科学省が事故後に実施した「放射性物質の分布状況等に関する調査研究」において採取した土壌試料の保管と貸出し業務を行う準備を進めており、原子力規制庁と協議している。
- ・データアーカイブズワーキンググループが予定しているアンケート調査に、試料に関する項目も追加する。
- ・日本学術会議の機能として、提言を作るということも重要である。提言作成も視野に入れて活動を進める。